

工業つ子

号外
—発行日—
2025. 02. 27
—編集—
長崎工業高校新聞部
—発行—
長崎工業高校新聞部

雨にも負けず ダイナミックに舞の駆ける 長崎くんち

十月七日、八日、九日の三日間開催された長崎の伝統行事である長崎くんち。新聞部は昨年引き続き、県設置の桧敷への招待を受け、取材しました。

長崎の伝統行事への理解や親しみを高校生にも深めてほしいとの思いから企画された長崎くんちへの招待。私たち新聞部は、くんち初日の十月七



▲月をの追い求める「龍踊り」の躍動

日に元船町の御旅所で取材。あいにくの雨で、開催自体も心配されましたが、予定通り無事に開始。桧敷もほぼ満席。会場では「御旅所を守る会」の方のリードのもと、会場の観客が一体となって大きく「もってこい」など掛け声がかかり、盛り上がりしていました。

屋根が開く 仕掛けも

西濱町 龍船・二胡演奏

全長は十一メートル、重さは約四トンと、長崎くんちの演し物の中でもトップクラスの大きさを誇っている西濱町の「龍船・二胡演奏」。動くたびに車輪が地面を削っているような重たい音が聞こえてきます。豪快な船回しに身体全体で迫力を感じました。



▲大迫力の「龍船」

また、屋根が開き舞台になる仕掛けも施され、舞台が開くと、観客から驚きの歓声。舞台上では



▲二胡の音色響く

中国伝統の弦楽器である「二胡」を中国出身の二胡奏者シンシー・チーさんが演奏。美しい音色を奏で、美しい音が会場中に響き渡っていました。

鳩が飛んで 盛り上がる

八幡町 山伏道中・剣舞・三矢八幡祝いの船

白鳥が登場することが印象的な八幡町。山伏道中・剣舞・弓矢八幡祝いの船の三つの演し物があることが特徴です。山伏道中は子どもたちがカラフルな山伏の衣装を身にまとって列になっ



▲「弓矢八幡祝いの船」の豪快な船回し

くんちに参加して 参加生徒に聞く

今回のくんち、八幡町に花田大我さん(M3)、興善町に松尾修作さん(E3)の二人の長工生が参加。に参加しての感想やくんちの魅力について、インタビュー。

一生の思い出になる 貴重な体験

花田大我さん(M3)



▲船を引っ張る花田さん

花田大我さん(M3)は「七年に一度開催される長崎の大きなこの祭りに



▲笛を吹く松尾さん

参加して普段の生活では経験できないような貴重な体験をたくさんすることができました。小さい子どもから年上までいろんな世代の人が参加していて特に、年上の人との交流は普段の生活ではなかなかできない貴重な経験でした。一生の思い出になるとも思います。くんちの魅力は迫力があるって長崎が一体となること」と語ってくれました。

心身ともに 成長できた

松尾修作さん(E3)

松尾修作さん(E3)は「想像していたものよりかなりきつかったです。特に朝早くから活動が始まり、夜の七時ごろまで途切れることなく楽器を吹き続けるのは予想以上に体力的にきつくと、とても大変でした。ですが、おかげで体力もつき、精神面でも成長することができました。とてもいい機会になりました。くんちの魅力は長崎の伝統と聞かれるポイントが多いこと」と答えてくれました。

金色の朱盃など 特色あふれる

傘鉾



▲華やかな朱盃



▲豪快にまわる



▲美しい梅の赤色



▼鯉が天を向く



▲笑顔でお話される楊さん

くんちは出てみるのが一番
解説の楊爾嗣さんにインタビュー
七日に御旅所で演し物について実況・解説をされていた楊爾嗣さん。ご自身も長崎くんちに参加した経験があり、長崎くんちの魅力を語っていました。その楊さんに演し物をみての感想を伺うと「稽古を重ねている間からずっと見守ってきたが、想像以上に感動的なくんちで、気が付けば解

説を忘れそうになるくらい夢中になって観ていました。今年は例年以上に迫力があったように思います」とのこと。また、今回おこなった解説については「解説の稽古をしていましたがやっぱり緊張しました」と話されていました。そして、くんちの魅力は「おもしろいところは多くあるが、やはり、くんちに出てみるが一番分かる」との答えが返ってきました。

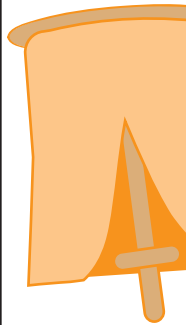
出場の想いなどについて解説でお話されていた楊さん。御旅所を守る会や観客の人たちと一緒に

なっている「もってこい」などの掛け声もされていて、会場を盛り上げられていました。さらに演し物をおこなっている町が変わるごとにそれぞれの町のTシャツを着用してPR。とても印象的でした。今回、はじめて解説を聞きながらくんちを見るのができました。解説があることによって演し物の魅力をより一層感じながら観覧することができました。

絵心を誘う 傘鉾の魅力

各踊町の個性が表れる傘鉾。いろいろな傘鉾が見れて、とても楽しく、私のお気に入りになっています。

大見出しに何か演し物を作って置いて使ってみようと思ひ、イラストレーターで傘鉾を作ってみました。使うことにはなりま



後編 編集 昨年年度に引き続き、き数席で長崎くんちを観覧することから雨が降っていたので、当日の朝から雨が降っていました。来年以降は雨が降らずに晴天のなか実施されることを祈ります。